

全国ネット通信

Japan Network for Climate Change Actions NEWSPAPER

Vol.
35
January.2020



Index

※内の数字は
ページを表しています

- 1 新年のご挨拶 (高田理事長)
- 2 年頭のご挨拶 (近藤局長、小宮山委員長)
- 2 脱炭素チャレンジカップ2020来場者募集中
- 3 COP25 報告
- 3 エコプロ2019 出展報告
- 4 古民家リノベーション～DIY断熱ワークショップ～
- 4 環境大臣表彰 地域の担い手が受賞!
- 5 研修実施報告 評価とファシリテーション
- 5 うちエコ診断士資格更新手続き実施中
- 6 プンちゃんのひとりごと
- 6 スタッフ紹介
- 6 櫻田彩子のミニコラム

新年のご挨拶 ～行動する若者たち～

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長 高田 研
(都留文科大学 特任教授)

明けましておめでとうございます。2019年はグレタ・トゥンベリさんのシンプルなメッセージと行動が世界の若者たちの共感を生んだ。彼女が注目されていた11月6日、本学4年の佐藤琢磨はアジア湿地シンポジウム2020国際運営委員会に若者の代表として参加するため、韓国・順天にあるスンジョンウェットランドセンターにいた。

彼が代表をつとめるユースラムサールジャパンは、全国52のラムサール条約登録湿地で活動する中学生～30歳までの若者たちの団体である。彼らは様々なプロポーザルに参加し、資金獲得をしながらここまで駒を進めて来た。

世界を視野に入れながら目の前の湿原保全活動が続ける行動力には脱帽する。彼は地球の未来に不安を感じ、内から湧き上がる気持ちを抑え切れずに動き始めた若者の1人である。

今年はみなさんの地域で動き始めている若者たちと“同じ目線”で新しい協働を試みるのはどうだろうか。今年の脱炭素チャレンジカップ2020には、彼らの関連団体が登場する予定である。

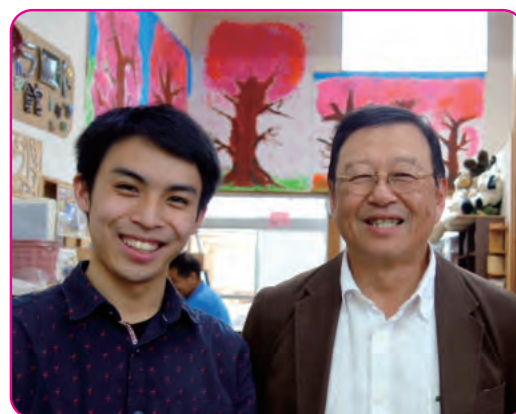


写真: 出身の“きのくに子どもの村学園”にて

年頭のご挨拶

環境省地球環境局長 近藤 智洋



新年、明けましておめでとうございます。

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会員各位におかれましては、平素から環境行政に対する御理解と御協力、地域における地球温暖化対策活動に特段の御尽力をいただき、深く感謝申し上げます。

昨年は、台風19号による洪水被害など大きな災害に悩まされた一年でした。近年、気候変動の影響が指摘される自然災害が深刻化しており、長期的な地球温暖化の傾向と関係しているという見解が示されています。我が国としても、5年連続で削減した温室効果ガス削減の流れを着実に進展させるため、昨年6月に策定した「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」に基づき、今世紀後半のできるだけ早期に「脱炭素社会」を実現することを目指し、徹底した省エネ・再エネの最大限の導入等に取り組んでいきます。特に、約4割の大幅な削減が必要な家庭・業務部門の対策については、国民運動「COOL CHOICE」や住宅のZEH化、業務用施設等のZEB化・省CO₂化等を引き続き推進していきます。

地球温暖化対策を全国各地で、より効果的な取組を推進していくため、地域を理解し、地域に根ざした活動に取り組まれている地域センターの皆様の御協力は不可欠であり、今後一層のお力添えを賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人地球温暖化防止全国ネット及び地域センターのますますのご発展を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶

三菱総合研究所 理事長（脱炭素チャレンジカップ実行委員長）

小宮山 宏



新年、明けましておめでとうございます。

世界で気候変動問題が年々深刻化する中、世界の平均気温の上昇を産業革命前の2℃未満さらに1.5℃に抑えるため、脱炭素社会を構築することを我々は目指しています。昨年12月にスペイン・マドリードで開催された「COP25」では、世界の若者も参加し、対策の強化を訴えるなど、その動向が世界各国から注目されています。

日本においても脱炭素社会の実現に向けて、社会全体での機運の醸成や効果的な対策への取組を強力に進めていく必要があります。そのような状況の中、私が実行委員長を務める「脱炭素チャレンジカップ」では、今回「低炭素杯」から名称を改め、地域の多種多様な団体（学校・企業・自治体・NPO等）が、日々取り組んでいる地球温暖化防止活動を広くPRし、様々なパートナーと出会う「場」を提供致します。

この取組を通して、地域活動の活性化とネットワークの構築が促進されることによって、あらゆる主体の連携が深まって、脱炭素な地域づくりへの加速化が図られることを期待しております。

脱炭素チャレンジカップ2020 絶賛！来場者募集中！



前身の低炭素杯から10回目を迎える機会に名称を改めた「脱炭素チャレンジカップ2020」では、「学生部門」「ジュニア・キッズ部門」「市民部門」「企業・自治体部門」の4部門へ、全国から183団体のエントリーがありました！

この中から、書類審査を通過し、ファイナリスト28団体が決定しました。当日はファイナリストに、その取り組みをステージで披露して頂き、各賞が決定されます。どの団体が日本一に輝くのか、その瞬間をぜひ！会場でご覧ください。

また今回のプログラムでは、昨年、低炭素杯2019にて、ご講演を頂きました五箇先生に、地球温暖化による生物リスクの最新情報をお話していただきます。また、過去に受賞された4団体にお出でいただき、現在の取り組みについてご報告および、パネルディスカッションを予定しております。さらには、ファイナリストや、スポンサー企業との出会いの場の設定により情報交換などもできます。イベント満載ですので、ぜひ！会場に足を運んで頂きたいと思っております。

現在、来場者募集中です！また「オーディエンス賞」を決定する投票に参加できる「ゲスト審査員」も併せて募集しています！申し込みは、下記公式ウェブサイトよりお願いいたします。皆様のご来場を心よりお待ちしております！

<https://www.zenkoku-net.org/teitansohai/visitor.php>

脱炭素チャレンジカップ

検索

脱炭素チャレンジカップ 開催概要

開催日：2020年2月19日（水）

会場：伊藤謝恩ホール（東京都文京区本郷7-3-1 東京大学キャンパス内）

10:00～10:12 開会・挨拶

10:12～13:00 ファイナリスト28団体によるステージ発表

13:00～13:30 講演：国立環境研究所 五箇公一さん

「続・教えて五箇先生！地球温暖化による生物リスクの最前線！」

13:35～14:20 過去受賞団体から、現在の取り組みについて講演（4団体予定）

パネルディスカッション

15:15～16:30 表彰式・閉会

注目

13:00～13:30

続・教えて五箇先生！
「地球温暖化による生物リスク」



五箇先生に、現在の地球温暖化による生き物の変化や、私たちの暮らしへの影響などについて、最新情報をお話していただきます。質疑応答時間もあるので、直接五箇先生に質問できます！ぜひ！会場にお越しください！





COP25 報告

COP25は、スペインマドリードで2019年12月2日から15日まで開催されました。今回の会合の主な目的は、昨年のCOP24において議論されたものの合意がえられなかった、パリ協定6条（市場メカニズム）の実施指針について合意を得ることです。このほか、ロス&ダメージ、条約下の定期レビュー、気候資金等、ジェンダーと気候変動等の幅広い交渉議題について議論が行われました。

パリ協定6条の交渉では、小泉環境大臣が各国閣僚等と精力的なバイ会談の実施や閣僚級交渉における建設的な提案を行い、議論をリードしました。一方で、技術的論点以外に各国の利害が絡み合う政治的な側面もあり、すべての論点について完全に合意するには至りませんでした。我が国としては、今次会合での議論の進捗をもとに、COP26での採択に向け、引き続き貢献していきます。

また、小泉環境大臣は、閣僚級会合におけるステートメントにおいて、パリ協定6条の市場メカニズムについて、環境十全性を確保する実施指針を策定するという我が国の交渉ポジションをまず明らかにしました。その上で、日本の石炭政策への批判を真摯に受け止め、今後も脱炭素化に向けた具体的なアクションを続け、結果を出していくことのほか、今年9月に環境大臣に就任してから、2050年までのネットゼロを宣言した自治体を4から28に増やしたこと、日本のTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の賛同企業等の数が世界一であり、気候変動に関する適切な情報開示が更なる投資を呼び込んでいることなど、我が国の気候変動への取組や考えを発信しました。

ジャパンパビリオンにおいては、「Action. Action. Action.」をテーマとして、様々な展示等を行いました。展示では、我が国の強みとなる水素技術、宇宙・海洋観測、フロン対策、風力発電技術等を中心に、模型・ジオラマ・パネルを展示、映像を上映しました。サイドイベントでは、フロンのライフサイクルマネジメント対策や気候変動と防災など、世界の脱炭素化に具体的なアクションで貢献するための様々な取組を発信しました。

文：環境省地球環境局国際地球温暖化対策担当 参事官室



写真：環境省Twitter

エコプロ2019出展報告 ～SDGs×地球温暖化～

エコプロ2019の今回は「持続可能な社会の実現に向けて」をテーマに、昨年12月5日～7日の3日間、東京ビックサイトにて行われました。全国ネットは、SDGsの目標の1つである「13 気候変動に具体的な対策を」達成に向けて貢献すると共に、国民運動である「COOL CHOICE」を、日常の身近な視点から考えることができる体験型学習プログラムを実施しました。また、令和元年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰の受賞者36団体の紹介とともに、5つの部門における優良事例のパネル展示を行い、多方面からの視点で地球温暖化について、考える機会を提供することを目的にブース出展を行いました。

会期中の3日間でブースに訪れていただいた方々はおよそ1,200名。「COOL CHOICE 研究所」と題して新規プログラムを実施しました。参加者は、ブース内に掲示したCOOL CHOICEに関する複数のパネル写真から導き出し、回答を完成するミッションに挑戦。大人向けには新たな試みとして、スマートフォンにてQRコードから各取組のクイズをダウンロードし、回答してもらう方法を取り入れ、ペーパーレスに繋げる事ができました。参加者は、質問に回答した後にもブースに留まり、パネルをじっくり見られている方もおられ、COOL CHOICEを知るきっかけとなっていました。

また、教材プログラムの体験・展示においては、昨年に引き続き、エコ×衣（コロモ）+流行（モード）=エコロモードなファッションを考える「エコロモード☆ファッションショー」のプログラムは大人気でした。気温と衣服の関連については、幅広い年齢層に、高い関心を寄せていただきました。

全国ネットは、世界で気候変動問題が年々深刻化する中、市民の地球温暖化防止への行動変容へのきっかけはもちろん、各地で活躍する推進員や指導員の方々の一助となり、地域の温暖化防止活動がより一層活気あるものになるお手伝いを今後も続けていきたいと思っております。





地域における地球温暖化防止活動促進事業 活動視察報告

古民家リノベーション ～DIY断熱ワークショップ～

NPO法人ECOフューチャーとっとり（鳥取県地球温暖化防止活動推進センター）では、自治体や地域の方と連携し「持続可能な地域社会づくり」を目指しながら、温暖化対策の実践の輪を広げる活動に取り組まれています。そのひとつに、地域の方たちと交流しながら、DIYでできる断熱リフォームをワークショップ形式で学ぶ事業を今回ご紹介いたします。

“DIY断熱ワークショップ”と題したワークショップは、北栄町妻波のおためし住宅でもある古民家で開催されました。

主な参加者は、子育て世代で「古民家再生」「中心市街地活性化」「移住まちづくり」「DIY」「断熱リフォーム」に関心のある鳥取県民。26名の参加者は4チームに分かれ、建築の専門家による指導のもと、天井裏に断熱材を入れたり、畳の下に透湿・防水・防風シートを貼ったり、障子にポリカーボネートを重ねて断熱障子を作るなど、全員でDIYで断熱作業を実践されました。

専門家から、ホームセンターで揃う材料で、手軽に、安価にできる方法を分かりやすく教えてくださるとともに、座学では、家の断熱性能が悪いと、暖房等にエネルギーをたくさん使うだけでなく健康にも影響することや、人口減少・空き家問題などの地域課題の解決のためにも気候に適した断熱性能が必要なこと、インターネットにて何でも買える時代ではあるものの、地域のコミュニケーション活性化の面からも地元の工務店やホームセンターで材料を手に入れることの大切さ等をお話しされていました。

ワークショップはお昼休憩を挟むため、会場内の台所でスタッフと参加者が昼食を作り、みんなで食べるというプログラムもありました。メニューは、地域の管理栄養士の方が考案された「ここもからだもあったかレシピ」を基に町内の農家さんからいただいた野菜で作ったしょうがご飯、豚汁、漬物でした。参加者は、からだをあたためる食材、旬の野菜を使う効果の話聞きながら、作業の空腹を満たし楽しいひと時を過ごされていました。

今回の“DIY断熱ワークショップ”は、参加者が協力して作業をしたり、一緒に昼食を食べるなど、楽しみながら取り組むことができる体験型の普及啓発活動になっていました。また、自治体や住民、地域の工務店などとの連携を強化するものとなっており、交流型の普及啓発活動としても継続が期待できる取り組みでした。他にも、“環境問題”ではない“地域課題”の切り口でワークショップを開催することにより、これまで訴求できていなかった新たな層への温暖化対策の訴求を目指すなどたくさんの工夫があり、このワークショップは、今後も大きな効果が生まれていくように感じました。



会場となった妻波おためし住宅



畳をはがして透湿・防水・防風シートを貼る様子



天井裏に断熱材を敷く様子



ポリカーボネートを切って障子にビスでとめる様子



町内の農家さんからいただいた昼食の材料

令和元年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰
地域の担い手が受賞！

地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人・団体を表彰することにより、受賞者における一層の取り組みの推進を促すとともに、国民・事業者等に対する地球温暖化対策の普及の促進を図ることを目的として実施している環境省主催の表彰制度「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」の今年度の受賞者が決定し、昨年12月2日に表彰式が行われました。

今年度も地域で活躍する「地域の担い手」である地球温暖化防止活動推進員2名の方が受賞されました！

他にも多数の最新地球温暖化防止技術、先進導入事例などがホームページに紹介されていますので、ぜひご覧ください。

詳細は…

令和元年度環境大臣表彰

Q 検索

◀ 写真左
大分県推進員の
加藤俊一さん◀ 写真右
兵庫県推進員の
馬場勇治さん



管理者向け研修実施報告

事業評価について考える「評価とファシリテーション」

「地域センターにおけるプロジェクトマネジメント力の向上」を目的に、全国センター事業の一環として今年度から始まった、地域センター職員管理者向け研修。明治大学教授の源由理子先生と明治大学客員研究員の高橋聖子先生を講師に迎え、「評価とファシリテーション」をテーマに実施しました。師走の忙しい時期でしたが、北海道から九州まで、幅広いセンターの方々にご参加いただきました。

さて、今回のテーマの一つである「評価」。この言葉についてどのようなことを連想されるでしょうか。「点数化される」「他者と比較される」など、あまり良いイメージを持っておられない方も多いかと思います。しかし、源先生の言う「評価」とは、継続的な事業の改善に役立てる道具であり、事業計画内容の精査、実施途中の振り返り、成果の検証といった、一連の作業を含むものです。



一方で、地域センターの事業をはじめとした環境問題等の社会課題の解決には、多くの利害関係者が関わることで多く、それぞれの主体ごとに、事業に対する思いや考え方が異なります。そのため「評価」の一連の作業には、事業にかかわる多様な関係者間の「対話」が重要であり、それを可能にするのが、もう一つのテーマである「ファシリテーション」です。

研修では、事業評価を行うための、アウトプット、アウトカムの捉え方、ロジックモデルの構築についての講義のほか、ファシリテーションの機能や方法論についての講義、また、架空のNPOの活動事例をもとに、講師がファシリテーターとなり、実際にロジックモデルを構築するワークショップを実施しました。



後日実施した研修に関するアンケート調査の結果から、実際の業務でロジックモデルを活用した評価を実施してみたいといった声が多数あったほか、ファシリテーターの重要性を再認識したなど、参加されたセンターの方々からご好評をいただきました。

今後も、管理職研修をはじめ、地域センター職員向け研修の充実化を図ってまいります。各センターからのご参加をお待ちしております。

うちエコ診断士資格更新手続き実施中

うちエコ診断資格試験運営事務局では、うちエコ診断士の資格認定期間が2020年3月31日までとなっての方を対象に「うちエコ診断士資格更新研修」を実施しております。

更新研修は昨年度から指定会場での座学研修の受講ではなく、eラーニング形式での開催となりました。受講期間内であれば、ご都合のよい日時で自己学習をして更新の手続きをしていただけます。

詳細については、下記ポータルサイトにてご確認ください。

<https://www.uchieco-shindan.jp/shindan/kensyu.php>

うちエコ診断士 更新

検索



●更新研修講義内容

講義1	講義2	講義3
気候変動問題の最新情報・動向について - 気候変動問題の最新情報・動向について(世界・日本) - 日本における温室効果ガス排出量の状況 - 平成30年度うちエコ診断による結果 - 日本の家庭部門の温暖化防止対策に關係する政策	家庭における地球温暖化対策の最新技術・動向について - 住宅の省エネルギー対策 - 省エネ機器等の最新情報 - うちエコ診断のポイント	受診家庭からの声・個人情報管理・消費者問題について - 受診家庭からの声 - 診断士に求められるスキル - うちエコ診断実施後のふりかえりリスト - うちエコ診断における事業リスク - 個人情報保護について - 消費者問題について - 診断時マナーと倫理規程について

●更新研修手続き期間

更新研修お申込み期間	2020年1月22日(水)～2020年3月3日(火) 17時まで
更新手数料お振込期間	2020年1月22日(水)～2020年3月4日(水) 15時まで
更新研修受講期間	2020年1月24日(金)～2020年3月13日(金) 17時まで



ぶんちゃんのひとりごと

生物多様性ってなあに？

動物大好き！ぶんちゃんファンの皆様！
こんにちは！今回は、動物園でも大人気の
ホッキョクグマについてです。



ホッキョクグマってどんな動物？

分類：クマの仲間 系統的にはヒグマに近い。
体長：オス：200～250cm メス：180～200cm
陸上の肉食動物としては最大。
体重：オス：400～600kg (最大800kg)
メス：200～350kg
食べ物：アザラシ、鳥の卵、苔、セイウチなど雑食性
寿命：野生25～30歳

生息地：北アメリカ大陸北部、ユーラシア大陸北部、北極圏。冬は流氷が
南に移動するので、一緒に南に行き、夏は北に移動する。

ホッキョクグマは、生活時間のほとんどを海に浮かぶ海氷で費やしています。また、食糧となるアザラシを捕まえる際には、海の中から上がってきたところを待ち伏せして襲ったり、氷の下を泳いでいるところを嗅ぎ付けて、氷を破って襲ったりします。狩りをするにも海氷は不可欠であり、海氷とホッキョクグマは密接な関係です。

しかし、地球温暖化による水温・気温の上昇は、海氷にも影響を及ぼしています。氷が張る冬の期間が短くなり、海に浮かぶ氷が溶けてしまっ、なかなか凍らないという状況になっているのです。そして、ホッキョクグマにとっては、氷の無い期間が長くなるということは死活問題なのです。

動物園で私たちが身近に見ることのできるホッキョクグマが「私たちの影響によって絶滅しかけている」としたら～？日本から遠い北極圏のことなので、他人事になってしまいそうですが、地球温暖化は自然生態系の一員である野生動物にも、大きな影響を及ぼしています。

これから人間とホッキョクグマが共存できる世界でありますように。

企画・広報グループ 高橋文彦

スタッフ紹介



総務グループ 岩本彩夏

Iwamoto Ayaka

「意外！」とよく言われるのですが、本を読むことが大好きな29歳です。
小説・エッセイを中心に、年間150冊程、本を読みます。
30歳になったら、今まで読んだことのないジャンルの本にも挑戦しようと思っています！

今年の4月で入社丸2年になります。
全く違う業界から転職し、知らなかった

ことだらけの環境問題・地球温暖化でした。まだまだこれからも、日々勉強です。

昨年、家を購入し、その際に太陽光パネルを設置しました。
実際に設置してみて、「使用している電気が見える」ことの面白さを実感しています。

例えば、下の写真は、左は通常使用しているリビングのLED照明や、電気機器の充電、冷蔵庫などを使用中。右は、それに加え照明で白熱電球を使用した時の電気消費量。白熱電球とLED電球に比べ、どれだけ電気消費量が多いのか目に見えてわかります。

私は大学時代から8年間、舞台製作にどっぷりはまっていたが、その際に合言葉のように使っていたのが、「面白がる」。どんなに面白い作品も、本人たちが面白がっていないものは伝わらないもの。それは、どんなことにも共通しているのかな？と思います。

自分が身をもって感じたことは、人に伝えるときに一番大事な情報になるのではないかなと、思います。

今年中に全ての照明をLED電球に替えます！！



▲白熱電球を使っただけで、0.3kWも違う！！



▲地域と社会をつなぐ「TGAL」！

温暖化『一村一品』大作戦』と、2011～2019年に開催された「低炭素杯」の延べエントリー数を合わせたものです。これほどの数の団体や個人がエントリーし、今まで活動を発表して下さったのです。世界に誇れる数字ではないでしょうか。

12年間の成果や人との繋がりを未来に生かし、いよいよ2月19日「脱炭素チャレンジカップ2020」が開幕します。気温上昇1.5℃に抑える世界を諦めない！気候危機を回避するため、日々活動する地域のヒーローが集結します。今回からはファイナリストの皆さんや、当日来場の皆さんにとって、SDGs思考で課題解決のため繋がる場にもなるよう準備をしています。すぐ出来る簡単エコアイデアから、脱炭素の先進事例まで、笑顔と学びと出会いのお土産をお持ち帰りいただけるようスタッフ一同頑張っています。司会は櫻田です！

エコナウンサー 櫻田彩子の

ミニコラム

『12,625』こちらの数字、何を表している
と思われますか？

ズバリ、日本の温暖化防止活動の宝です。
地域の温暖化防止活動にスポットを当てるため2008～2010年まで開催された「ストップ

櫻田彩子

プロフィール

Sakurada Ayako Profile

宮城県出身の
エコナウンサー。
テレビ朝日「じゅん
散歩」レポーター
ほか、「低炭素杯」
の司会など。
全国ネット
賛助会員。



表紙の写真：環境マークプログラム実施説明会

キリンホールディングスさんご支援をいただき「環境マークプログラム」を学童保育・ガールスカウトの団体さんが実施しています。写真は指導員向け実施説明会の様子。童心にかえって(?)楽しみながら学んでいました！



一般社団法人地球温暖化防止
全国ネットの活動をサポート
してください！

年会費：個人会員1口 5,000円
団体会員1口 20,000円

編集後記

入社2年目にして、表紙の写真「環境マークプログラム実施説明会」を担当しました。各団体でプログラムを実施していただくために、まずは指導員さんが楽しんで取り組み、理解し、各団体に合ったやり方で実施して頂けるようにという思いで行いました。指導員の方々を巻き込み、同じ「想い」で活動する「輪」を広げていくことも役割の一つだと思っています！出会いを大切に、輪を広げていけるよう努力します！

(企画・広報グループ 黒田真由美)

地球温暖化防止全国ネット通信 第35号 2020年1月号

【編集・発行】

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット (JNCCA)
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3

第一アミビル4階

TEL: 03-6273-7785 FAX: 03-5280-8100

<https://www.zenkoku-net.org/>



省エネパワースタンド10%省エネを実現

